

# 復興のあゆみ

●各連合会・組織での取り組み

3





# J A 福島厚生連

## 基本方針

東日本大震災・原発事故に伴う双葉厚生病院の長期休業と医師・看護師などの人材流出・確保困難な状況の中、公的医療機関として地域医療の確保のため、地域の特性に応じた診療体制および病院機能の充実・再編に取り組むとともに、関係機関との連携を強化しながら健康管理活動、高齢者福祉対策への取り組み強化を図りJ A 福島厚生連の使命達成に努めました。

## 地域貢献活動

継続  
取り組み中

### PET-CTがん検診J A 福島復興コースを継続

福島県の農業復興を支えるJ A 組合員とその家族が心身共に健康で元気に農業に従事してもらうために、PET-CTがん検診の料金を破格の4万円に設定した「J A 福島復興コース」は、平成26年3月末時点

で受診者数が2,770人になりました。予想を上回る申込みがあり、平成26年7月まで予約が埋まっている状況です。「J A 福島復興コース」の第3期の募集を平成26年6月2日から開始し、今後ともJ A 組合員とその家族の健康不安の払拭に貢献して参ります。

## 相談支援専門職チームの活動

継続  
取り組み中

### 相談支援専門職チームの活動

福島県の委託事業である「相談支援専門職チーム」の活動に、当会の作業療法士が平成24年度から参加しており、県南地域で2週間に1回のペースで活動を継続しています。

## 復興対策

平成26年  
2月1日

南相馬市鹿島区では、被災者のための仮設住宅が設置され、震災前に比べ人口が約2,000人増加

## 完成した鹿島厚生病院併設介護老人保健施設「厚寿苑」



鹿島厚生病院から



エントランス



したことなどにより、介護・福祉の需要が高まっていた。

このような状況を踏まえ、J A福島厚生連は地域の強い要望に応えるため公益財団法人ヤマト福祉財団の「東日本大震災生活・産業基盤復興再生募金」および南相馬市の「介護基盤復興まちづくり整備事業」の助成金等を受け、入所58床から100床へ、通所1単位20人から2単位40人の新たな鹿島厚生病院併設介護老人保健施設「厚寿苑」の建設を計画しました。平成25年1月31日に着工し、震災の影響による資材不足や人手不足など多くの困難がありましたが、平成26年1月30日に竣工し、同年2月1日に開所しました。

「厚寿苑」の新設・増床は鹿島区をはじめ南相馬市の復興のシンボルとして切望されていたものであり、J A福島厚生連としては、地域で不足している介護・福祉の要望への対応と更なる高齢者福祉医療・介護の充実を図っていきます。



談話コーナー



食堂



機能訓練コーナー



4床部屋



地域交流スペース



テラス

※人物はイメージを組み込みました。





## JA全農福島

大震災・原発事故からの再生と次代へとつなぐ協同の実践3カ年（25-27年度）事業計画の初年度として、生産振興・営農再開支援・風評払拭対策などに取り組みました。

### JA全農福島職員全体集会 ～役職員心をひとつに～

25年度で2回目となるこの集会では、「前進」をキーワードに、福島県農業の復旧・復興ならびに事業必達に向けて、全職員が決意を新たにしました。



全職員が一堂に集まりました



福島県農業の復興に願いを込めてダルマの目入れを行いました（左から本田良智県本部長、成清一臣理事長、山本富雄常務）



「がんばろう三唱」の掛け声で、全職員が決意を新たにしました（労働組合宗形義洋委員長）

### 復興・再生に向け、安全・安心な福島県産農畜産物をPR

#### 「ふくしま農業PRサポーター」誕生！！

常磐興産(株)と協力し、本県産農畜産物の安全・安心を全国に向けて発信していこうと、スパリゾートハワイアンズのフラガールを「ふくしま農業PRサポーター」に任命しました。田植えや果物の収穫、牛の餌やりなどを通じて、本県産農畜産物の安全とおいしさをPRしました。



東京の新橋駅SL広場で行ったイベントに駆け付けた森まさこ内閣府特命担当大臣



「ふくしま農業PRサポーター」に任命されたフラガール。県内外の様々なイベントに参加し、全国に福島県産農畜産物のPRをしました。（左より 常磐興産(株)佐久間博巳営業本部長、難波麻衣子さん、松本千鶴さん、本田良智県本部長）



「福島牛の安全性とおいしさをPRするため、試食会を行いました



肥育農家のお手伝い



桃の収穫のお手伝い



## 「ふくしまの米」の取り組み

### 「ふくしまの米」の販売に向けて ～「極上のふくしまの米産地説明会」を開催～

2013年産米の販売に向けて、県内と首都圏の卸業者やスーパー担当者を対象に、全量全袋検査体制と結果の公表など、ふくしま米の安全性を説明しました。



取り組み状況の説明を受ける参加者  
(福島県農業総合センター)



全袋検査の視察(JA郡山市片平倉庫)

## ふくしま野菜・果実の取り組み

### 福島県産青果物の安全・安心をPR

#### 福島県青果物 安全・安心な取り組み説明会

関東・京浜地区の荷受会社やスーパーバイヤー等、多くの方に安全・安心への取り組みを説明し、県産青果物の取り扱いの拡大を要請しました。



取り組みの説明に耳を傾ける参加者

#### キュウリ・桃のトップセールス

福島県の佐藤雄平県知事とともに、関西圏における風評払拭活動の一環として、県産キュウリや桃のトップセールスを行いました。市場関係者にその安全性やおいしさをPRしました。



市場関係者に県産キュウリをPRする様子

## 福島牛

### 福島バーベキューフェスティバルin裏磐梯

約1,000人が参加をしたバーベキューフェスティバルでは、福島牛や麓山高原豚(はやまこうげんとん)、アスパラガスやシイタケなどを提供。大自然の中で楽しい一日を過ごしました。



バーベキューを楽しむ参加者



挨拶をする庄條徳一  
県本部運営委員会会長

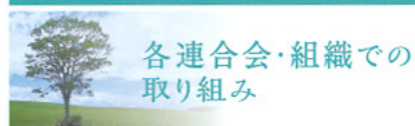
### 震災後2年ぶり成牛セリ再開

震災後、2年ぶりに成牛セリが開催され、放射能検査を受けた妊娠牛18頭と一般牛35頭が上場されました。



セリ会場の様子





# JA共済連福島

## 地域貢献

### 福島の子どもたちへ夢と元気を

震災により心にさまざまな負担を受けている福島の子どもたちが、これからもそれぞれの夢へ向かい、一步一步進んでいくことができるよう、交通安全啓発活動「交通安全ミュージカル・マメルワタル」「アンパンマン交通安全キャラバン」「スタントマンによる自転車交通安全教室」「書道・交通安全ポスターコンクール」「福島県高校生交通安全CMコンテスト」のほか「はたらくワンワンランド（介助犬）」、福島ユナイテッドFCと連携した「サッカー教室」「夢授業」や「福島県少年サッカー選手権大会（FCT・JAカップ）」など、さまざまな地域貢献活動を展開した。



### 豊かで暮らしやすい地域社会を

福島への復興に向けて、健康で安心して暮らせる豊かな地域社会の実現のために、「JAグループ役職員の統一交通安全キャンペーン・交通遺児奨学基金募金活動」「ドライビングシミュレーター（きずな号）」「高齢者交通安全教室」「介護福祉士の育成」「笑いと健康教室」「レインボー体操」など、健康増進と交通事故ゼロを目指す活動を実施した。





## 活動経過

H25. 4. 5	レインボー体操 (JA新ふくしま)
4.16	生徒向け自転車交通安全教室 (JA会津みどり)
4.21	福島ユナイテッドFCサッカー教室 (JA郡山市)
4.25	生徒向け自転車交通安全教室 (JA郡山市)
4.25	笑い与健康教室 (JA東西しらかわ)
5. 1	福島ユナイテッドFCサッカー教室 (JA新ふくしま)
5.12	福島ユナイテッドFCサッカー教室 (JAあいづ)
5.26	福島ユナイテッドFCサッカー教室 (JA伊達みらい・JAみちのく安達)
6.12	親と子の交通安全ミュージカル (JA新ふくしま)
6.22	アンパンマン交通安全キャラバン (JAそうま)
6.23	アンパンマン交通安全キャラバン (JA伊達みらい)
6.24	高齢者向け交通安全教室 (JAそうま)
6.26	介助犬育成デモンストレーション (JAたむら)
7. 2	笑い与健康教室 (JAあいづ)
7.15	ドライビングシミュレーター (JAあぶくま石川)
7.30	笑い与健康教室 (JA会津みどり)
8. 5	介護福祉士奨学生認証式
8.27	福島ユナイテッドFC「夢」授業 (JAあいづ)
9. 2	JAグループ統一交通安全一斉街頭キャンペーン (JAグループ)
9. 7	アンパンマン交通安全キャラバン (JA会津いいで)
9. 8	アンパンマン交通安全キャラバン (JA会津みなみ)
9. 9	福島ユナイテッドFC「夢」授業 (JAみちのく安達)
9.22~23	ドライビングシミュレーター (JAたむら)
9.23	介助犬育成デモンストレーション (JAたむら)
10. 5~ 6	FCT・JA共済カップ第32回福島県少年サッカー選手権大会
10. 7	介助犬育成デモンストレーション (JA会津みどり)
10. 7	福島ユナイテッドFC「夢」授業 (JA会津みなみ)
10.26~27	ドライビングシミュレーター (JAすかがわ岩瀬)
11. 2	平成25年度JA共済福島県小・中学生書道・交通安全ポスターコンクール表彰式
11. 2	福島県高校生交通安全CMコンテスト2013表彰式
11. 6	高齢者向け交通安全教室 (JAあぶくま石川)
11.13	ドライビングシミュレーター (JAふたば)
11.13	笑い与健康教室 (JA郡山市)
11.17	笑い与健康教室 (JAたむら)
11.18	福島ユナイテッドFC「夢」授業 (JA東西しらかわ・JAいわき市)
11.22	高齢者向け交通安全教室 (JA会津いいで)
12. 4	笑い与健康教室 (JAみちのく安達)
12.24	(公財) 福島県交通遺児奨学基金協会への募金贈呈式 (JAグループ)
H26. 1.29	高齢者向け交通安全教室 (JAあいづ)
2. 6	笑い与健康教室 (JA東西しらかわ)
2.13	高齢者向け交通安全教室 (JA伊達みらい)
2.24	福島ユナイテッドFC「夢」授業 (JA伊達みらい・JAいわき市)
2.24	レインボー体操 (JA新ふくしま)
3. 5	笑い与健康教室 (JA会津みどり)
3.10	高齢者向け交通安全教室 (JAたむら)





## 農業復興、生活再建に向けた支援状況

震災関連資金（農業関連資金）および復興応援ローンの利子補給を実施した結果、取扱状況は以下の通りとなりました。

## 震災関連資金の取扱状況（農業関連資金）

(件数：件、金額：百万円)

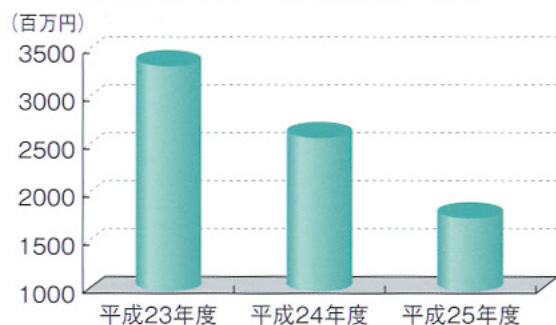
	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	累 計
件 数	1,229	724	444	2,397
新規実行額	3,379	2,645	1,810	7,834

## 復興応援ローンの取扱状況（JA住宅ローン、JAマイカーローン、JA教育ローン）

(件数：件、金額：百万円)

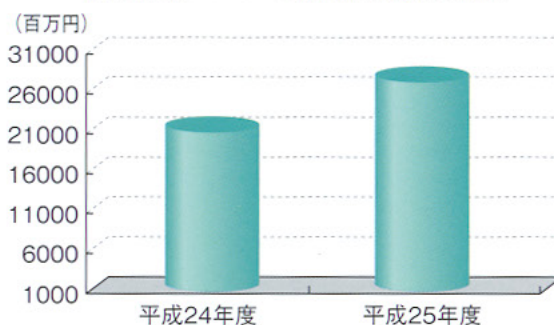
	平成 24 年度	平成 25 年度	累 計
件 数	3,873	3,642	7,515
新規実行額	22,183	28,453	50,636

震災関連資金の新規実行額の推移



震災当初は、営農のため緊急に必要とする運転資金需要が多かったものの、段階的に終息しつつあります。

復興応援ローンの新規実行額の推移



平成25年度は、生活再建に向け、復興応援ローン（特に住宅ローン）の取り扱いが拡大しました。

## 環境教育活動・放射能除染研究への支援

JAバンク福島では、震災後、JAエコ定期貯金を取り扱い、預入残高 0.005%相当額を福島大学（子どもたちの環境教育活動や放射能除染研究）、ふくしまエコチャレンジ事業（福島県が実施する地球温暖化の防止に向けて子どもたちが取り組む環境活動）へ寄付しております。

あわせて、JAバンクアグリ・エコサポート基金からもJAエコ定期貯金の預入残高 0.005%相当額を寄付しております。

(金額：千円)

	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	累 計
寄付金の合計額	1,210	5,962	3,000	10,172

※ 寄付金の合計額は県内JAおよびJAバンクアグリ・エコサポート基金の合計額。

※ 平成25年度は平成25年8月末までの集計値。





長谷川福島県環境生活部長㊟、舟山福島県JAバンク運営協議会専門委員会委員長㊟、有田農林中金福島支店長



入戸野福島大学学長㊟、舟山福島県JAバンク運営協議会専門委員会委員長㊟、有田農林中金福島支店長

## JAバンク食農教育応援事業

JAバンク福島では、福島県内の子どもたちに食・環境と農業への理解を深めてもらうため、福島県の全小学校へ補助教材を贈呈しております。

なお、教師用の教材本では、「福島盆地のももやりんごづくりを調べる」をテーマとした活用事例紹介、「食品と放射性物質に関する参考資料」等も掲載しております。

※平成26年度は福島県内の小学校468校および特別支援学校21校へ約2万1千部贈呈する予定です。



小学校高学年向けの補助教材



杉福島県教育長㊟、有田農林中金福島支店長

## 震災復興に向けた事業間連携

### 稲作営農再開支援

東日本大震災により被災した水田、および原発事故による作付け制限等に指定された水田の営農再開支援として、JA、JA全農福島等を通じて購入した「種子」「苗」等の育苗経費の一部を助成しております（平成24年～平成27年産米が対象）。

### 農機・園芸施設リース導入支援

東日本大震災により被害を受けた農業者等が、JAまたは関連会社を通じて農機または園芸施設等をリースにより導入する際に、リース料総額の一部を助成しております。

### 本県農畜産物・加工品の販売促進PR支援

（株）農協観光福島支店が企画した、本県産食材の販売促進PRを目的とする「復興支援おみやげ品カタログ」の印刷費を助成しております。





## JA福島県青年連盟

### I 基本方針

震災発生からの3年間を通してJA福島県青年連盟は、震災からの復興、風評被害の払拭を目指した活動を展開してきました。

福島県の未来を担う子どもたちに、豊かな大地と伝統ある文化を伝えるべく、今後も盟友一丸となって福島県・農業の復興へ向けて活動を継続していきます。

### II 青年連盟組織活動

#### 1. 「食農・食育」活動の継続

- (1) 「田んぼの生き物調査」「バケツ稲づくり」など、次世代に豊かな自然を守る意識を持ってもらうための自然環境・地産地消学習を継続して実施しました。

#### 2. 復興支援・風評被害払拭活動の展開

##### (1) 復興支援活動

東北・北海道ブロック統一行動として、被災地仮設住宅における元気野菜市を開催し、被災者との交流を図るとともに、売上金については、被災地の社会福祉協議会へ寄付する等の活動を実施しました。

##### (2) 風評被害払拭活動

風評被害払拭活動を継続して行い、県内・外の各地で福島県農産物のPR・販売活動を実施しました。



県選出国会議員に対する要請活動

##### (3) 要請活動

ポリシーブック（政策提言集）を活用し、国会議員に対する要請活動を実施しました。

#### 3. 他県青年連盟との交流

##### (1) 他県青年組織、全国青年組織協議会からの支援

平成25年度において他県青年組織協議会等から約26万円の義援金を頂きました。

##### (2) 他県青年組織と被災地との交流

JA紀州中央青年部盟友がJAそうま青年連盟との交流会を、JA山口中央青壮年部盟友がJAしらかわ青年連盟との交流会を実施しました。



全国消費者大会で風評払拭活動



TPP反対で都内をデモ行進





県外における農産物PR活動



田んぼの生き物調査



社会福祉協議会への寄付



ポリシーブック作成活動

### Ⅲ 具体的活動の記録

#### 【県内実施活動】

	日時	活動内容・出展先	場所
①	平成25年5月10日	JA紀州中央青年部との交流会	JAそうま管内
②	平成25年7月21日	ふくしま復興祭	いわき市21世紀の森公園
③	平成25年10月27日	復興応援元気市	相馬市大野台仮設住宅他
④	平成25年10月30日	JA山口中央青年部との交流会	JAしらかわ管内

#### 【県外実施活動】

	日時	出展先	場所
①	平成25年8月3日～4日	「がんばろうふくしま つながろうさいたま」	埼玉県さいたま市
②	平成25年10月6日	長野県農業協同組合フェスティバル	長野県安曇野市
③	平成25年11月20日	「神田タヤけ市」	東京神田西口商店街

※この他、各JA組織において全国各地で復興・風評被害払拭活動を実施。

#### 【要請活動】

	日時	要請先	内容
①	平成26年3月14日	福島県選出国會議員	ポリシーブックによる要請





## JA福島女性部協議会

## 基本方針

私たちは、平成23年3月11日に発生した東日本大震災により、地震や津波といった天災に加えて東京電力福島第一原子力発電所による放射能漏れという人災も重なり、いまだかつて経験した事もない大きな苦しみと被害を受け続けています。

このような中でも私たちは「協同の力」を発揮し、一日も早い復旧・復興を願い無理なく継続できる身近な活動に取り組むものいたします。

## 農業復興対策

## 風評被害払拭PR活動

長野県協同組合フェスティバル、長野県女性大会、さいたまスーパーアリーナなどで、県農畜産物の販売を農青連と協力して行いました。

また、県内では新ふくしま、みちのく安達、郡山市、東西しらかわ、あいづ、会津みどり、いわき中部女性部が、それぞれの地域や県外で、食の安全・安心を消費者に対しPRを行いました。

福島風評を無くすために生産者と消費者の交流を通して相互理解を深めるため、福島県消費団体連絡協議会との交流会を行いました。

併せて、放射性物質の基準値や健康への影響、検査体制等についての理解を深めることを通じて、食品と放射性物質に関する正確な情報の提供ができる者（＝コミュニケーター）を養成しました。

## 日本農村医学会金井賞を受賞

農村の保健と医療の向上に顕著な功績を挙げた団体に贈られる日本農村医学会金井賞を受賞することができました。

昭和27年にJA福島女性部協議会が創設以来、農村婦人の健康増進のための研修会の開催、厚生連と共同で農業従事者特別健診の推進、日本型食生活を推進する活動の展開、現在は「健康寿命100歳プロジェクト」の健康教室や健診活動を女性部中心に行っていることが認められての受賞となりました。



長野県協同組合フェスティバル



コミュニケーター養成研修会



日本農村医学会金井賞受賞



## 主な取り組み事項

### 復旧・復興に向けての主な取り組み事項

#### 他県女性部などからの支援

平成25年6月17日

J Aうおづ女性部来県。義援金の贈呈

平成25年7月

J Aぎふ女性部より折り鶴レター

平成25年7月31日

山口県J A女性組織協議会が来県、交流会を開催。

平成25年8月

J A岡山県女性組織協議会より義援金及び菜の花油の贈呈

平成25年9月10日

J Aあいち三河女性部来県。

平成25年9月18日

J A広島県女性組織協議会来県、交流会を開催。

平成25年9月20日

J A都城女性部来県、交流会を開催。義援金及びお守りの贈呈

平成25年10月2日

J A広島ゆたか女性部来県、交流会を開催。

平成25年10月8日

J Aみなみ信州果樹婦人部来県、交流会を開催。

平成25年10月10日

J A高千穂地区女性部来県。

平成25年11月13日

J Aしが女性協議会来県、交流会を開催。義援金の贈呈

平成26年3月3日

J A福山市女性部来県、交流会開催。

平成23年4月から、他県女性部などより義援金をいただきました。

#### 県女性協の風評払拭など取り組み

平成25年8月

埼玉スーパーアリーナにてがんばろう福島・つながろう埼玉イベントで桃の販売。ミサンガ募金

平成25年10月

長野県協同組合フェスティバルにて県内農産物、加工品を販売。  
ミサンガ募金

平成25年11月

長野県女性大会にてJ Aそうま農産物販売。



山口県JA女性組織協議会との交流会



福島県消費者団体連絡協議会との交流会



長野県女性大会





## あとかき

東日本大震災とそれに伴う東京電力福島第一原子力発電所の事故により、未曾有の被害を受けてから3年が経過しましたが、除染も計画どおり進まず平成26年3月現在、未だ13万人以上の方々が県内外に避難生活を強いられています。

JAグループ福島は、前年に引き続き大震災・原発事故からの復旧・復興を最優先課題として事業活動を展開してまいりました。

特に、大震災・原発事故からの再生に向け、消費者と共生する「安全・安心なふくしま農業」の復興のほか、「福島ブランド」の信頼回復と向上に努めており、県と連携した検査体制を構築し、米の全袋検査をはじめ園芸品目の全戸・全品目の自主検査、牛肉の全頭検査など検査を実施し、食品衛生法上の基準値を超過する農畜産物は市場に流通させない体制を引き続き取り組むとともに、放射性物質が検出されない本県農畜産物づくりに取り組んでいます。

しかしながら、連日のように東京電力による汚染水問題等の報道もあり、未だ風評払拭には至っていません。

このような中、全国のJAグループ組合員・役職員の皆様をはじめ、多くの方々から昨年に引き続き物心両面にわたります温かい協同の力を提供いただき、復興への大きな支えとなっております。

大震災・原発事故から3年が経過し、それらを風化させてはならないとの思いから、主として平成25年度のJAグループ福島の取り組みを本冊子にまとめ作成いたしました。

これまでの冊子発刊にあたりまして、原稿や写真・資料の提供をいただきました県内各JA、連合会、関係団体をはじめ、(株)日本農業新聞、(株)JA情報サービスなど各関係機関のご協力にあらためて感謝申し上げます。

震災・事故前には戻りませんが、避難者数の減少、避難指示区域の解除、そして何より避難指示区域での米の出荷再開やあんぽ柿の出荷再開など明るい兆しが見え始めております。

復興前の姿に戻るまでには、まだまだ長い時間を要するでしょうがJAグループ福島は、組合員の営農再開と「福島ブランド」復活のため、協同の力を結集した事業展開をしてまいります。

引き続き皆様のご指導、ご支援をお願い申し上げます。

### JAグループ福島 復興のあゆみ

3.11 東日本大震災 JAグループ福島の取り組み No.3

平成26年6月20日 発行

**編集** 福島県農業協同組合中央会  
〒960-0294 福島市飯坂町平野字三枚長1-1 電話 024-554-3040

**発行** JAグループ福島

**制作** 株式会社 日本農業新聞  
〒110-8722 東京都台東区秋葉原2-3 電話 03-5295-7410





平成26年6月



ふくしまから  
はじめよう。

Future From Fukushima.

JAグループ福島東日本大震災復興・原発事故対策本部  
JAグループ福島

県内JA JA福島中央会 JA福島厚生連 JA全農福島 JA共済連福島 農林中央金庫福島支店